

第54回 全国ミニバスケットボール大会 出場報告書

松崎ミニバスケットクラブ女子

監督 上山 英史

この度松崎ミニバスケットクラブ女子としては、20年ぶり3回目の全国大会出場になり、山口県代表としてバスケットボールの聖地、東京代々木体育館でのゲームを経験することができました。

思えば新型コロナウイルス感染症流行中の2020年夏、自粛で思うように試合も無い時のことです。当時4年生だった子供達に何のための練習なの？

目標の無い練習で本来のバスケットボールの楽しさ、一生懸命頑張った練習の後に試合という発表会があるはずなのに・・・

その時、子供達に話をしました。

目標設定をしないと集中した練習にならないし、将来の成長が想像できないと言って子供達に目標をきちんと設定しようと言ったところ、試合で勝ちたい。1番になりたいという言葉が子供達から出てきました。

その時私は、市内で1番？県で1番？と問いかけると県で一番になりたいという言葉がみんなから出てきました。

じゃあ、全国大会出れるね。と子供達に行った時の目の輝きはすごく印象的で、それから全国大会出場を目標にした練習を行い、子供達はすごく一生懸命練習に取り組み、我々指導者もそれに応えるために、いろんな練習を取り入れました。

私も自分自身の全国大会出場経験から、子供達へ挑戦する意味や辛さその先の喜びを伝えながら、ともに築く未来を創造することでチームとして、沢山の動き方を作り上げることができ、本来のバスケットボールの合わせを作りながら県決勝大会を勝ち抜くことができ、全国大会出場の切符を手にすることができました。

3月28日・29日で開催された第54回全国ミニバスケットボール大会では、大変素晴らしいチームとの戦いに大会関係者、レフリー、MC どなたからもすごく良いチームですね。凄く応援したくなるチームですねと、お褒めの言葉を頂き子供達と共に苦しい練習をしたかいがあったと思いました。

三重県代表・栃木県代表・福岡県代表と対戦することができ、まず感じたことは各チーム大きい選手が必ずいることと、スピードには自信があったのですが各チームにも共通してスピードがあり、フィジカルも強くすごく鍛えられたチームだと感じました。

その中でも、初戦の長島オールスターズさんとの初戦は、やはり代々木第一体育館という大きな体育館での試合で緊張しないわけも無く、出だしは思うようにシュートが入らず相手の長身選手にリバウンドシュートを決められる展開でした。

その後、何とか食らいつく場面もありましたが、長身選手のところを埋める手がなく、

初戦は敗退してしまいました。

2日目は第二体育館からのゲームで、雀宮ミニバスケットボールスポーツ少年団との対戦でしたが、前日に相手チームのスカウティングをしていましたが、4年生ガードがすごくスピードがあり、それを武器に切り崩すようなチームでしたが、初日はシュートが入っていないからそこに惑わされないようにしようと子供達と前日にミーティングを行い、何とか前半は同点で折り返すことができましたが、後半に入りシュートが入るようになり、自チームのリズムが悪くなってきたところに、アウトサイドのシュートはチェックに来ない、ドライブのみをヘルプでカバーされる展開にでした。

その結果、松崎の得意な速い展開からのドライブやジャンパーを止められてしまい、4Qに離されて終了になりました。

最終戦は日本最強と言われる、壱岐リトルソニックスとの対戦、7月に見たときには、中学生かと思うくらいに、フィジカルが強く、いろんな角度からのシュート、セットプレー、前からくるディフェンスなど、選手個々が何をするのかよく判断ができるチームだと思いました。

将来の日本代表になる選手と対戦できるんだよ！今できるすべてでぶつかろうと子供達とミーティングしましたが、コートの中に入ると全員が mismatch になるような大型チーム。思うようなゲームはさせてもらえなかったですが、防府市立松崎小学校の生徒のみで構成されたチームでよくここまでこれた奇跡、それを支えてくれた保護者をはじめ、ご支援・ご声援を頂いた方々のおかげだと思います。

これからの子供たちの成長を祈念し、簡単ではございますが出場報告とさせていただきます。

〈試合結果〉

松崎 34 — 55 長島オールスターズ（三重県代表）

松崎 34 — 53 雀宮ミニバスケットボールスポーツ少年団（栃木県代表）

松崎 21 — 91 壱岐リトルソニックス（福岡県代表）